

色々なあそびを考えよう！

ワークシート

積み木は積む、重ねカップは重ねるといった基本的な使い方の他にも遊び方がありますね。ここに挙げたのはごく一部の例です。また、複数のおもちゃを組み合わせる使うとまた違った展開が楽しめると思います。片付けも言葉や視覚的な理解力を育てるのに良いチャンスです。ぜひお子さんと一緒にやってみましょう！



玩具1： カラーつみき

【ステップ 1】

積み木の基本動作を楽しむ中でさまざまな言葉かけができます。低年齢のお子さん向けのあそび方です。

◆転がしあい・滑り台（つみき＋板）

形によって違う擬音語・擬態語（オノマトペ）を聴かせたり（○：ころころ・□がたごと・△かたんかたん等）、○はボールで遊ぶときのようなやりとりを楽しめますね。□や△は転がりませんが、板を滑り台にすると「しゅー、すべった、もう一回」などの言葉かけができます。形の基本である○・△・□は小さいお子さんむけの（立体）パズルなどでもよく登場します。お勉強として扱うのではなく、あそびの中でさりげなく見聞きしていきたいですね。

◆高く積んで倒す

「乗せて、高い、もっと、倒すよ、せーの・どーん、倒れちゃった、もう一回」などの声掛けとともに、短いサイクルの繰り返し遊びが楽しめます。倒す前や、倒れた後に少し待ってみるとお子さんからの表出が出てくるかもしれません。ハイタッチなどで気持ちの共有をはかるのも良いですね。小さいお子さんにとっては手先を使うあそびはとても大切です。

【ステップ 2】

「見立てあそび」や初期の「なぞなぞ遊び」の中では、さまざまな言葉かけができます。低年齢だけでなく、あそび方の工夫次第で高年齢のお子さんでも楽しめると思います。

◆家やトンネルを作って見立て遊びからごっこ遊びへの発展（つみき + ミニカー・人形）

子どもが自分の発想で作っても良いですし、大人の作ったものを真似して作ることも目と手をうまく使う練習になります。ミニカーや小さい人形を組み合わせることで、ごっこ遊びに発展できます。名詞だけでなく、動詞や形容詞、やりとりに必要な言葉が盛り込めます。

＜使用する言葉の例＞ ごく一部です。ご自分でも考えてみましょう。

おうちを作る場合：おうち・屋根・玄関（入口）・まど・ドア・駐車場・〇階だて・ベランダ・ベッド・テーブル・いす・お風呂場

乗り物あそびをする場合：乗り物（車・バス・汽車）・バス停・駅・駐車場・トンネル・山・止まる（止まれ）・通る・バックバック・いくよ・いいよ

形容詞：大きい・小さい・高い・低い・

位置や数：上下・前後・隣・右左・〇つ

◆手探りゲーム（つみき＋箱）

穴の開いた箱に積み木を一つ入れ、外から見えない状態にし、手探りで形を当てるゲームです。「何の形だと思う？〇〇だと思う。当たり！やったね。はずれ、残念 etc.」形を言い当てられるようになったら、出す前に理由を聞いてみるのも良いでしょう。「角があるから四角(三角)」「すべすべして角がないから丸」など。箱の代わりに洗濯用ネットを二重に重ねたものに入れても同様に遊べます。積み木の場合、形が限定されているので、動物や果物で同じような遊びをするよりも当てやすいと思います。

【ステップ3】

積み木をゲームとして利用することもできます。年齢の高いお子さん向けのあそび方です。

◆じゃんけんゲーム

じゃんけんで勝ったほうがつみきを積んでいき、どちらが高いか(多いか)くらべっこをします。ジャンケンの子供同士のかかわりで大切なものですが、タイミングよく手の形を変えるのは指先の運動にも良い練習になります。ルール理解が不完全でも、まずは経験していきましょう。逆に理解できているお子さんには、「どうやって勝ち負けがきまるか」「みんな同じ手を出したらどうするか」「後から出すのはどうしていけないか」などを一緒に考えてみるのも良いですね。また、「高いほうが多い、低いほうが少ない」といった何かを比べるという「比較概念」はその後の「数学習」の基礎になります。

◆同じのどれ？（つみき＋袋）

2つの袋に同じ種類のつみきを入れ、子供と大人それぞれが持ちます。色と形を聴いて袋から選び、子供と大人で同時に見せ合いっこをするゲームです。理解ができれば役割を交代して、お子さんに色と形を言ってもらいましょう。手探りゲームで扱う言葉の他に「次は誰の番？」など役割交代を意識した言葉かけができますね。

◆聴き取り遊び（つみき+町の地図、ついたて）

つみきと町の地図を2セット用意し、大人と子供それぞれが持ちます。間についたてをして区切り、お互いが見えないようにします。「赤い丸を交差点の真ん中に置いて」など位置の言葉を含む文を聴いて正しい場所に置き、「せーの」でついたてを外し、大人と見せ合います。位置の言葉には「手前、奥、～のそば、近く、右、左、斜め前、ずっと後ろ、真ん中」などがあります。

<ポイント>

＊片付ける時も工夫して楽しみながら一緒に片付けてみましょう。

例：転がした先に入れ物を用意し、落ちるようにする（低年齢児でやりとりを楽しむ）

色のついた箱に色分けしながら片付ける（視覚認知を育てる）

「おにぎりみたいな形ちょうだい」等なぞなぞ風に聴き取りながら片付ける（言語理解）

＊聴き取り課題はお勉強風になりがちですが、大人と合わせっこをしてゲーム性を持たせると楽しめます。



玩具2： 重ねカップ

数字付きなどいろいろあります

【ステップ1】

カップを重ねるという基本動作に加え、少しアレンジを加えるだけでも年齢の低いお子さんにとっては楽しい遊びとなります。

◆くるくる回し

回し始めと終わりを明確に区切って、止まった後に少し待つとお子さんからの要求表現が出てくるかもしれません。また、カップを選ぶ際に「大きいのと小さいのどちらがいい？」「何色がいい？」など問いかけると言葉のやりとりにつながります。カップに指を入れてくるくるまわすこともできますし、カップそのものを立ててこまのようにまわすことも楽しめます。

【ステップ2】

カップに何かしらの玩具を加えることで、グッと遊びの幅を広げることができます。「かくれんぼ」「おままごと」「乗り物遊び」に発展させてみてはいかがでしょうか？

◆かくれんぼ（重ねカップ+ミニ人形）

2～3個のカップを伏せ、目の前でそのうちの一つに人形を隠します。位置を入れ替えたりしながらどこにいるかを当てる遊びです。交代して子供が隠しても良いでしょう。かくれ

んぼ遊びのようにどちらかが 1-10 まで数えたり、「もういいかい?」「もういいよ」のやり取りも楽しんだりできます。「ひっくり返して、隠れるよ、動かすよ、どこにいるかな? 何色に入ってると思う? みつけた、〇色に入ってた etc.」などいろいろな言葉かけをしてみてください。

◆ままごと（重ねカップ＋食べ物・飲み物 etc.）

大きいカップはボウルやお皿代わりに、小さいカップはコップのようにして使うことができます。食べ物を混ぜて配ったり、お茶を注いで乾杯などままごとに発展させて楽しめますね。

◆船あそび（重ねカップ＋洗面器・水・ミニ人形）

水を入れた洗面器にカップを浮かべ船のようにみたく、人形などを一つずつ乗せていきます。お風呂では補聴器、人工内耳を外して聴こえませんが、洗面器でもちょっとした水遊びが楽しめます。吹きあっこなどしても良いですね。

【ステップ3】

年齢の高いお子さんの場合は、つみき同様、ゲーム遊びにもつかえますし、色・位置・大きさ・数などの言葉を使いながら、知識や概念的なことを含めた遊びに発展できます。

◆立体神経衰弱（重ねカップ＋切れるままごと食べ物）

ランダムに伏せたカップの下にままごと食べ物を半分に切ったものを隠します。神経衰弱の要領で2つ開け、同じものを探すゲームです。

◆色・位置の聞き取り

カップをすべて重ねた状態で、「上から二番目は何色?」「緑色のカップは全部で何個ある?」など文を聴いて答える遊びです。片付ける際に取り入れられますね。

◆大きい順に並べる

「一番大きい(小さい・中くらい)のはどれ?」など尋ねながら、大きさの順になるように並べていきます。「だんだん大きく(小さく)なる」ということが学べます。「赤より大きくて青より小さいのはどれ?」など言葉の理解・記憶の練習もできます。

<ポイント>

- *カップを使ったかくれんぼは小さいお子さんでも楽しめる遊びです。慣れてきたら開ける前に短い歌を歌うなどして視覚的な記憶力を伸ばしていけると良いですね。
- *カップを入れ物や船に見立てて遊ぶことで、イメージ力や認識力が育ちます。
- *大きさの順に並べること（系列化）の理解は 5 歳児くらいで可能だと言われています。カップを片付ける際にじっくり順番を考えて入れることから始めましょう。